

○日本は、災害大国であることから、地方創生が政府としての課題となり、また、東日本大震災や西日本豪雨のような大規模災害が発生する度に、地域建設業の役割の重要性が再確認される。仮に自分が被災した場合、地域に精通した建設プロフェッショナルがいれば間違いなく安心するし、安全だと感じる。これは被災していてもしなくても感じられることではないだろうか。地域建設業は、経済活動のみならず、地域の一員として様々な社会活動を通じての地域の魅力・安心の向上に貢献していく重要な役割を担っており、各種美化活動、地或見守り隊、子供たちを含む地域住民が安心して集える場所の提供。こうした活動は、地域社会への貢献とともに、地域建設業のイメージアップにもつながっている。

○地域建設業は地域の安全確保や地方創生も期待される産業である。しかし、生産人口の減少により人員不足が続いているという現状がある。人員確保のためや産業の発展のためには働き方改革やIoT技術の活用が必要であることが分かった。特に働き方改革については早急に取り組むべきことだと感じる。私が就職活動を終えた身として取り組み内容を拝見したが、どの取り組みも行われていて当然のことが今まで行われていなかったことに驚いた。これから積極的に人材を確保したいのであれば記載されている取り組みはすべてクリアしたうえでプラスαのメリットや特典がなければ人材の流出はやむを得ないと感じた。

○特に驚いた点としては、建設業界では、労働災害により年間300名の方が命を落としているということだ。インフラ整備などで、多くの日本の人々の命を救ってきている業界の人々が、労働災害によって命を落としていくという事実は、とてもつらいものがある。「展望」にも記載されていたが、働き方改革もそうだが労働災害に関する対策や措置をもっととっていけたら、若い人材の確保にもつながっていくのだろうと考える。

地域建設業の今ある課題の取り組みとして、個人的に魅力的だと思ったのは、女性の活躍がみられてきているということである。そういった取り組みがあったということを知らなかったのもあるが、女性ならではの視点が盛り込まれているというのが、従来、建設といえば男性というイメージを変革してきており、どういった女性が具体的に活躍をしているのか興味を持つことができた。また、高齢化に伴ったご高齢の方の働きが取り組みとして、使われていることも、今後の日本が抱えている高齢化社会による、あらゆる問題解決につながっている。

○技術を買うためには多額の資金が必要であるため簡単には導入できないという事実を知り、技術は素晴らしいのに使われずにいるのはもったいないと感じた。国の中小建設企業に対するICT対応に向けた支援策が講じられつつあるものの、資金の理由と、それを扱う人手不足が原因で導入しきれていないという課題があり、これに対する対応は早急には難しそうである。この原因はICTのシステム、AI、ドローン、ビッグデータを提供する側と建設企業との間に利害関係があるからだと考える。そこで私は二つの提案をしたい。一つ目に、それらを無料で貸し出し、それを使って得た利益の一部を提供してくれた側に何割か還元するというもの。二つ目に、技術を提供する側と利用する側が合併して、一つの企業、またはグループとして共に事業展開していくというものである。これらを進めていくことで、技術を簡単に、かつコストを抑えて利用できる。また、今まで利用できなかった建設企業もIT技術が利用できるようになることで生産性があがるため、人材不足の課題を乗り越えることが出来る。

○私の地元ではトンネルの落盤事故があった。自身が使用する道でそのような事故が起きたことに今でもひどく衝撃を受けている。あのような事故は決して起きてはいけないことであると思う。人の生活に密接した業界だからこそ、責任ある仕事が求められると思う。皆が安心して暮らせる環境を整えることが建設業界の使命であると思う。その使命を果たしていくために建設業界は成長していくべき業界であると思った。

また、私の父は土木作業を仕事にしている。仕事の話をお父さんから聞き、責任が大きい仕事だが自分のした仕事が目に見えるものとして残るとするのは、非常にやりがいのある素敵な仕事であると感じた。

○私は、労働力不足に対応できる方法として、IoT技術の導入による建設作業の半自動化を提案する。近年注目されているIoT・ICT技術だが、これは建設業界にとっても大きな可能性をもたらすものであると私は考える。とくに、目覚ましい成長をしているAI技術などを用いれば、設計図や作業工程、現場の環境などの情報を入力するだけで、建設作業を代行させることができるようになる。また、開発されたICT建機は、他の建設会社や産業でも応用が利くため、ICT建機の売買などによる資金獲得も考えられる。ICT建機を開発するための資金であるが、クラウドファンディングを利用するのも手であると思う。

○建設業はどちらかといえば男性が活躍している業界という印象があり、そこに女性がいるというのはあまりイメージがつかない。しかし、地域と密接にかかわる建設業界だからこそ、女性の視点が重要になるということを知った。しかし、入社後の女性の昇進・上級管理職までのキャリアアップはいまだに難しいのではなしかと感じた。建設業界として女性の労働環境をどのような取り組みを通して改善していくのか知りたいと感じた。労働中の死亡災害のうち、全産業の3分の1を建設業が占めるということを知った。これほど高い割合だとは思わなかった。この深刻な問題にどう対応していくかは建設業界のみならず、災害復旧を依頼する地方自治体や政府とともに解決策を考える必要があると感じた。

○地域の「人材育成産業」として、若者が入職し、そこで技術者・技能者・事務職員として立派に育ち、また後輩を指導し育てる、やりがいを実感できる職場を提供することがもっとも今の企業に求められていることなのだと思います。

○女性の積極的雇用のためには、まずは資料にもあるように仕事と家庭、地域社会とが両立可能な働き方の実現、つまりワークライフバランスのさらなる推進は必須であると感じる。労働条件は内部の人的資源に大きな影響を与えるだけでなく、地域をはらむコミュニティの生活条件にも大きな影響を与える。ただ労働条件を向上させようとして賃金(給与)の向上だけでは意味がなく、働き手の家族への配慮、チャイルドケア、内的なストレス管理やセクシャルハラスメント等に対する対応も求められるのではないかと感じた。

○今回の西日本の豪雨により、岡山県倉敷市真備町の小田川が氾濫することになり多くの人の危険につながった。未曾有の大雨が大きな原因であるのは間違いないが、調べたところによるとこの川では昔から何度か氾濫が発生しており、国による堤防の今日から近年予定されていたと言う。しかしその予定が間に合わず今回の大惨事と繋がってしまった。もし建設業などの人材が多くまた固からの投資家多ければこの災害はもしかしたらふせげていたかもしれない。このようなことから私は建設業の長期化、安全の確保のためにはこの書類に書かれていることを実践することが大切だと感じた。

○「建設業における女性の活躍の場の拡大へのロードマップ」というものを策定し、女性が入社した後に社員育成、出産、育児などのライフステージに応じた社内体制整備などの道筋を示している。女性ならではの視点からの現場環境の改善、女性目線での現場パトロールなど女性活躍の取り組みが広がっているという。ちょうど、学部のゼミの発表で職場における女性を含むテーマを扱っていたので、建設業界でもこのような取り組みがあり嬉しく思いました。

○私は地域建設業将来展望を読んで、地域建設業界は時に厳しい現場環境の中で、仲間とともに協力して働き、苦労のなかで建物完成という喜びを分かち合える仕事に誇りや魅力を持てていることに対してとても感銘を受けた。また、このような喜び誇りを若い後継者やたくさんの国民に伝えることが重要であると感じている。そのためには、地域建設業界がさまざまな挑戦を試みて、建物完成という形で示していかなければならないと思う。

○今回将来展望を読んで、建築業界の現状を知ることができました。土木工学科、建築工学科などの建築関係の学校が減少していることも始めてしり、それによって幅広く人材を募集せざるをえない状況にあり、採用後においても休日の少なさなどに対する不満から離職する者の割合が多いのは、とても厳しい現状なのだと感じた。その中、業界全体として、処遇改善、地域建設業の魅力発信等を通じ、地域建設業に対する理解促進に向けた取り組みはとても良い案であると思った。

○建設業は比較的人気名業種であると思っていました。しかし、このような実情があるということは驚きました。建設業は私たちの生活を支える重要な仕事であるから、従業員が働きやすい職場づくりをすることは大切なことであると感じた。

○最近地震も多く、いつ大地震が来るかわからない状況で、今のうちにもっと危機感を高めて、地震や災害時に即座に対応できるよう、備えをしておくべきだと私もおもいます。それが一番大事なことはないのかと思います。なので建設投資の状況が悪くなっているいまは、本当に日本の危機であり、もっとみんなが危機感を持って行動していかなければならない

○私が感じたのは建設業には問題が山積していることである。これを解決するためにはまず、地域建設業自体が現実を理解し常に変化する時代にうまく対応していくことが重要である。それには上長が社員に指示するだけでなく従業員自らが労働環境を改善するために自覚を持って就業することが本当に必要なことではないだろうか。

○資料の中で私がとても共感したところがありました。「また、地域建設業は、経済活動のみならず、地域の一員として様々な社会活動を通じての地域の魅力・安心の向上に貢献していく重要な役割を担っており、各種美化活動、地域見守り隊、子どもたちを含む地域住民が安心して集える場所提供、さらには、地域の誇りとなっている祭りに代表される地域行事の重要な主体となるなど、様々な活動事例が全国各地で見られる。こうした活動は、地域社会への貢献とともに、地域建設業のイメージアップにもつながっている。」

つまり、「地域」への貢献です。これは、地域建設業の得意分野であり、義務でもあると思います。地域への貢献をするからこそ生まれる発想、強い信頼感があります。

しかし、地域貢献を重点的に行えばいいというわけではありません。資料において、確固たる経営基盤を構築するために、「高い生産性を確保できる企業であること・優れた技術力を持つ企業で、あること・働く人たちに報い、大事にすることのできる企業であること」が大切であると記されていました。これらは企業活動を進めていくうえでとても大切なことであり、地域建設業だけでなくあらゆる業界に通じることであると思います。一概には言えないかもしれませんが、この3つがしっかりとできている中・小企業は売り上げもそれなりによいものになっているのではないのでしょうか。

○最初に読んで抱いた感想は、本当にたくさんの人たちが建設業界に携わっていることと、幅広い分野の仕事があることに驚きました。私の建設業界のイメージは土木の現場に出ている建造物を建てている人たちで、鳥インフルエンザの発生時の応急対応なども仕事としてやっていることは私も含め大多数の人が知らないことなのではと思いました。大規模災害の被害時には救急隊や自衛隊などが動いているものと思っていました。

○現在、建設業界は様々な問題を抱えているが、この問題を解決しないと日本の未来に大きく関わるだろう。特に、就業者の高齢化が大きな課題である。そのため、資料にあった通り、若手従業員の確保、女性、高齢者、外国人研修生等の活用・活躍、労働・安全衛生環境といった点の改善は非常に重要だと思う。さらに、現在建設業のイメージというのはあまりいいものではないと思うので建設業の良さというのをもっとアピールして、世間の建設業に対するイメージをよくするといった点にも力を入れると良いのではないのかと思う。また、資金不足や技術不足などの問題を抱えてはいるが、ロボット産業なども新たな分野への進出を図っており、今ならお互いに協力し合えるのではないかと思う。事業を拡大する際にも利益優先ではなく、社会的な貢献度を優先し、イメージアップを図っていくべきだと思う。

○オリンピック需要で足元はそれなりに回復基調ではあるものの、その後が心配です。だから、活路を見出すとしたら海外展開を強化していくしかない状況だと思います。グローバル展開は多くの人言うほど甘くない。建設業界の大手は、すでに伸びている「東南アジア」、まだまだ伸びる「インド」「アフリカ」などの地域を攻めていくことになるでしょう。

○「地域建設業将来展望」を読んで建設業界の無限の可能性に驚いた。なぜ、なら建設業界は「国土形成産業」であり「地域危機管理産業」であり「事業提案・創造産業」であり「人財育成産業」であり「地域基幹産業」であるというたくさんの使命を担っているからである。

これは人間が生きていくのに必要な「衣・食・住」の「住」に直接的に大きくかかわっており、なくてはならないものだからであろう。また、働き手が使命を自覚し誇りを持つことでより良い働き方になっていくだろう。さらに建設業以外の人々が建設業の使命を知り、応援することで業界も日本経済も良い方向へ進んでいくに違いない。

今回、「地域建設業将来展望」を読んで建設業のことを深く知ることができ、将来について考えることができたのはとてもいい経験であった。

○序章にある「もとより地域建設業は、良質なインフラ整備や維持管理をとおして、地域の生活環境向上や活性化を図る上で不可欠な存在である。また、地域の雇用を支え、自然災害等の発生時には、危険を顧みず、昼夜を問わず被災箇所などの応急対応を行い、地域の安全・安心を確保する役割を果たすとともに、地方創生等でも積極的に役割を果たすことが期待されている産業であり、こうした活動を通じて、地域に貢献していくことが地域建設業に与えられた使命であり、自らの誇りでもある。」という部分が、純粋にとてもかっこいい仕事なんだなあと思わせた。

○地域建設業に期待される役割として、安心安全の確保、良質な住宅の形成、地域活性化・地方創生の主体としての事業提案、雇用の保護、地域経済社会への貢献というように幅広くある。地域建設業は建築の仕事以外にもこのように幅広い役割があるのは知らなかった。特に、地域経済社会への貢献も役割の1つであるというのが意外だった。

○もっとも興味深いと感じたのは、女性の雇用を増やしていくための施策である。私自身、建設業界の、特に技術・技能的な部分においては、俗に3Kと呼ばれる「きつい、汚い、危険」のイメージがある。また、男性の多い職業であることから、女性の働きにくい現場ではなし、かという懸念もあった。そんな中でこの地域建設業将来展望を読み、女性の雇用を増やすための取り組みを行っていかうという意識が広がっていることは非常に良いことだと感じる。特に、トイレや更衣室といった施設は女性にとって必要不可欠のものであり、さらに広めていくことが重要である。しかし、依然育児に対しての意識の欠如が見られ、そういった点をどのように改善していくかは、女性を建設業に定着させる上で考えていく必要がある。建設業において熟練となるためには、長い期間がかかってしまう。そこに女性を取り込んでいくと考えるのであれば、女性が働きやすく、また復職しやすい環境を作っていくことこそ、最重要課題であると考えている。

○建設業では男社会という風潮があるが女性の従業員の活躍を促進していくことは地域社会の発展にまちがいなくつながると思う。具体的なそのための環境整備として介護休業の制度整備が挙げられていたがこれは特に日本の社会員の構造からしても急務とすべきことであり、取り組んでいかなければならないことであると思う。具体的にどのような取り組みをしているのかが気になった。

○ 70周年を迎える全国建設業協会の役割について、後半にいくつかの提案がしてあったが、いくつかある提案の中の「地域建設業の魅力ある姿や社会資本整備の必要性に関する積極広報」の中で具体的にどのような媒体で宣伝していくかが示されていなかったのも、そこまで具体的な提案をした方がより良いと思った。今の時代では、ツイッターやインスタグラムなどSNSがかなり普及しているので、紙媒体などの宣伝ではなくSNSを利用した宣伝をして行くべきだと思った。また、この章では建設業界の3Kのイメージが世間に浸透していることを不安視している文章があったか、これに対する具体的な解決策が提示されていなかった。私は、この現状を打破するためにも3K(くさい、きつい、きたない)のイメージから対照的なクールで、爽やかな芸能人などと契約して、建設業界が今の世間が思っているほど気い仕事ではないことを宣伝してもらうことが大切になってくると思う。また、世間が建設業界に対する3Kのイメージが強い原因として、作業着にも問題があると思う。もっと爽やかや鮮やかな色にすれば、イメージもかなり変わってくると思う。建設業界は現状として、人手不足だか、東京オリンピックなど大きなイベントがあり人手は必ず必要になってくると思うのでこのような悪いイメージを改善し、魅力を伝えていき人手を増やして欲しいと思います。

○国を挙げて「働き方改革」を叫んでいる。業界としてもその流れに乗って、働き方改革行動憲章に掲げた、取り組みに積極的に取り組んでいくことが大変重要である。そしてIT 産業の活性化に伴う技術力の向上にしっかりとついていくことだ。ただでさえ現状少ない労働力を補うには、AI等々の存在はとても大きなものであるとあっていい。そのため、優秀な技術者を定期的に輩出させ続け、高い技術力を存分に発揮させていくべきである。

○建設業界は建設者だけの関係でないことが読み取れた、建設工事の発注者という括りの中でも、公共発注者と民間発注者では規律や取組に大きな違いが存在していることには細かなルールがあることがわかった。そうした状況の中でも「建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン」は、民間工事も対象に含まれていることから、今後の建設業の働き方改革推進の足掛かりになりうるものであり、その徹底が期待される。

○建設業という男社会のイメージが強く、力がいたり職人技というイメージがどうしてもついてしまっている部分があると思う。そういったイメージからやはり昔よりも打たれ弱い教育を受けてきた現代の日本人において嫌厭され、新卒の建設業希望者の減少に繋がったりしてしまっていることがあると思う。また、女性もいくら女性目線での現場環境の改善等の女性が活躍する姿で地域建設業のイメージアップにも繋がっていると文章にはあれど、実際今まで一度も女性の働いている人を見かけたことがない。以前に比べれば女性職員の数は増えたのかもしれないが、女性も活躍できる職業と言えるには程遠い業界であるとも感じてしまうのが正直なところである。推進を図るのであればより大々的に県規模ではなく全国で女性の活躍のアピールをしていくべきであると思う。

○近年では、地震や大雨などの自然災害が多発しており、住宅、公共施設、インフラなどの安全性が一層注目されているのではないかと記憶に新しいのは、6月に起きた大阪北部地震により9歳の女児が倒壊した学校のブロック塀の下敷きとなり死亡してしまった事件である。その小学校のコンクリートブロック塀は、塀の高さが高すぎることや、鉄筋が配筋されていない、控え壁がない等と、重大な違法建築が発覚されている。自然災害を考慮せず作られた施設により女児が死亡したニュースを聞き、大変腹立たしいものであると感じた。この違法建築による死亡は「事故」ではなく「事件」であると私は捉えるべきではないかと考える。あのような事件を二度と起こさないためにも、建設業はより一層の安全点検と建築を行っていく意識を維持してもらいたいと思う。

○私は、長期休みに入ると必ず岐阜県で暮らしている親戚の家にて住み込みで建設業のお手伝いをさせていただいている。そこで感じるのは、やはり同業者の高齢化である。数週間、現場で働く中で感じることは、かなりタフな仕事で、休みも少なく、現代の若者が好んで就職する、ということは減多なことなのではないかということである。しかし、だからといって建設業は嫌かと言われるとそうではない。その理由は、仕事自体はタフで大変だが、実際に作り上げた時の達成感や、インフラ整備に貢献できたという充足感を大いに感じる事ができ、建設することに対しては魅力を感じる事ができるからである。つまり、後継者不足を改善していくためには、このような、仕事で感じる生きがいを伝えていくことが遠回りなようで離職率も改善していくことができる1つの方法なのではないかと考える。伝えていく方法として、実際に建設業に従事している方が学校やイベントなどに赴き、伝えていく方法をとったり、体験型の企画を考案し実際に達成感や充足感を感じてもらったりなど、智慧を沸かせば様々あると思う。

○地域建設業は、地域の一員として様々な社会活動を通じての地域の魅力・安心の向上に貢献していく重要な役割を担っており、各種美化活動、地域見守り隊、子供たちを含む地域住民が安心して集える場所提供、さらには、地域の誇りとなっている祭りに代表される地域行事の重要な主体となるなど、様々な活動事例が全国各地で見られるという。核家族化などが進み地域社会というのが薄れてきている今日、地域建設業が率先して関わることで様々ないい影響があると感じ興味深かった。

○私は、現在、コンビニエンスストアでのアルバイトをしているが、早朝の時間帯には、おそらく建設業関係の方たちの来店が多い。その中には3Kのイメージを匂わせるような方々もいれば、穏やかに接してくださる方々もいる。この経験上、やはり3Kの固定概念があることによって、そうならざるを得ない環境を作っているのだと感じた。

○とりわけ注目したいのは“ものづくりは人づくりから”の精神である。今日、新入社員に研修などをせずに、業績が出てからようやく初めて教育に力を注ぐ会社が見受けられる一方、人の命を預かる職種としての建設業はそのようなことは許されない。社員教育をして初めて業績に影響を与えるのだ。

○近年日本では災害が多発しています。大切な人を亡くしたり、故郷を失ったり、様々な悲惨な体験をもつ若者が増えています。この経験から、地域に貢献したいと考える若者は増えていると私は感じています。なので、このまま地域建設業への理解を深める活動を継続していくべきだと思います。また、女性が活躍できる職場に改革していくことは非常に重要だと思います。男女で視点が異なるので、より多角的に企業が発展できると思います。同じ理由で、外国人労働者の活用ももっと拡大させるべきだと思います。近年、日本の賃金の低さが原因で、他国の労働者だけでなく、日本人の労働者でさえ、他国への出稼ぎに流れてしまっています。職務内容が特殊で、ある企業は、労働環境の見直しを行い、性別や国籍関係なく働きやすい環境に変えていくべきです。

○建設業界だけに限らず、知名度の高い業界などはテレビなどで知識を得る機会があると思うが、知名度が低い業界は自らが行動して知ろうとしなければ、学ぶ機会がない。建設業界に限ったことではないが、人口減少社会にある今の日本で、就職をすることは簡単にできるようになっているが、自分が働きたいと思える職業で働いている人は少ない。しかし、様々な業界をしっかりと理解した上で職業を選択できているわけでもないと思う。そのため、大学からではなく、中学校や高校の時期から職業について考える機会、様々な業界のお話を聞ける機会を増やしていく必要があると考えた。

○工業高校の数について、1965年には925校の工業高校があったが2013年には542校と、約4割減少している。また生徒数に関しても、ピーク時の62万人から26万人と6割弱減っている（東洋経済online「若者で広がる、工業高校離れJ2014年3月13日より引用）ことから、大幅な工業高校離れが進んでいることから、結論として、一般市民にとって建設業、特に土木という仕事についてより魅力的に感じられるように、福利厚生改善など新3Kを民間企業及び国が全面的に推進する必要があると考える。

○3k（きつい、汚い、危険）から新3k（給料が良く、休暇が取れ、希望が持てる）へ、社会のイメージが移行していくために、まずは、建設業が果たしている大きな役割について、多くの人が気づき、携わるすべての人に感謝する気持ちから始まると思う。あまりにも日常を支えられているために、近すぎるがために、その大きな支えに気づきづらいということ、改めて感じた。

○この国の建設投資額が年々大幅に減少していることに驚いた。1992年度では84兆円をピークとしていたにも関わらず、2008年度には17兆円にまで減少していた。このために、いつ発生しても不思議ではない大規模地震災害等に備えるとともに、地域活性化や地方創生のために必要なインフラ整備や、国際競争にも打ち勝つために今必要とされているインフラ整備などが遅延し、大規模な自然災害の発生や国際競争力の低下などに伴い、大きな人的・経済的損失の発生も懸念されている。西日本を中心に襲い、死者をも出した豪雨をはじめ熊本の大震災など、最近の日本の自然災害は常軌を逸している。この不安定な状況の中、建設投資額を減少させては復興や災害防止に努めにくくなる。

○私たちの暮らしの中で住居や施設などは欠かせないものですが、具体的にどのような好影響を与えられているかは考えたことがありませんでした。建設というものは、私たちの安全に安心して生活できる場を提供し、地域としても国全体としても財産であり資本となるものを作り上げているのだと分かりました。さらに、つい数日前に西日本豪雨で多くの建物が浸水し、被災地の人々が復興に四苦八苦しながらも、自分たちの住んでいた家や職場を元に戻そうと尽力しているのを報道などで見て、やはり住居や建築物は人間の生活の一部なのだと感じます。人々の生活にとって大きな役割を担っている建設業をこれからの時代に適応しつつもっと盛り上げてほしいと感じました。

○現在、日本では人口減少が進み、どこの企業もより多くの人材を獲得したい世の中になっている。これは、建設業界にも言えることである。そして、第4次産業革命が起こっている現状なので、建設業界は新しい人材を獲得するのに有利である。これらの転換期を地域建設業界として積極的に挑戦していく姿勢がとてもよいと思った。地域建設業の役割も、明確になっておりこれから実行される行動の想像ができた。しかし、疑問に思ったことは、資金はどうするという事。地域に対して明確な行動や、企業による支援が記載されているのに対し、その行動にともなう費用が明確に記載されていない。これでは、この情報だけ知った人は、自分たちの地域に莫大な費用がかかると思ってしまう。

○地域建設業の展望をみて私が感じたのは、目まぐるしく変化する社会の状況を上手く理解し、対応しようとしているということである。その中でも変化に対応しつつも自分たちのやるべきことを理解し、強みを活かそうとする姿勢が地域を盛り立てることが出来る要因になりえるのではないだろうか。人材競争が激しい中でも、人の育成や職場環境の安全性を確保しようとしているわけであるが、もう少し社員の受け入れに対する対策案が生まれればより社員が入ってきやすい環境になりえるのではないだろうか。大きな社会にのみ目を向けているのではなく、地域社会にもこれだけ考えられた対応が見られるというのは好印象であるし、このことをより地域の方々に知っていただければ、より安心して地域の方々が暮らせるのではないかと感じた。

○今、取り組まれているような若い層に知ってもらえるようなインターンや体験などは非常にいいものだと感じた。また、SNSの活用も現代に於いており、いい活動だと思った。そして、若い層がどのようなところで働きたいかを考えたときに、給料が安定しており、休みがちゃんとあるという要望は上位に上がると思う。であるから、少しでも早い休日の確保が必要だと思う。

○私は建設業界の抱える課題をこの文章を読んで知ることができました。口東北大震災の原発事故のときのように問題が起きてからでは遅いと思うので政府に今日本が直面している重大な問題として捉えてもらうために全建の方たちにはこれからのよりいっそうの注意喚起をして日本の意識を変えていってほしいなと思いました。

○女性ならではの視点からの現場環境の改善、近隣対策等の実施、企業・地域の枠を越えた女性目線で、の現場パトロール等、女性活躍の取組が広がっており、一方で、研鑽を積み、現場で活躍する女性の姿そのものが地域建設業のイメージアップにも繋がっているとあります。このように今までとは違う、女性をメインに考えてくれる建設業界をいいなと素直に思いました。

○従業員が減少傾向にある状況で、建設業という専門的な職業は将来的にさらに人手不足になるのではないかと考える。そのため、興味のない人ほど建設業について知識が浅いと考えられるから、建設業の魅力を誰にでも興味を持てるようにアピールすることがポイントだと考える。

○今後の建設業の在り方として、高度成長期以降に集中的に整備されており、今後一斉に老朽化することから、橋梁、トンネル、上下水道等の公共インフラのほか、マンション・ビル等を含めた耐震化、長寿命化、再整備等に伴う投資の拡大が見込まれている。結果として、この時期が大転換時期であり地域建設業のチャンスである。

私が普段暮らしている中、インフラ整備など特に気にしてなかった。しかし、この資料を読むと建設企業で働く方々により感謝が深まった。建設業は、大変仕事の内容が難しく従業員も減少している。その中、建設の方々たちは、国のために貢献してくれている。政府は、インフラ整備の重要性を見つめなおし、建設投資額を増額すべきと考える。